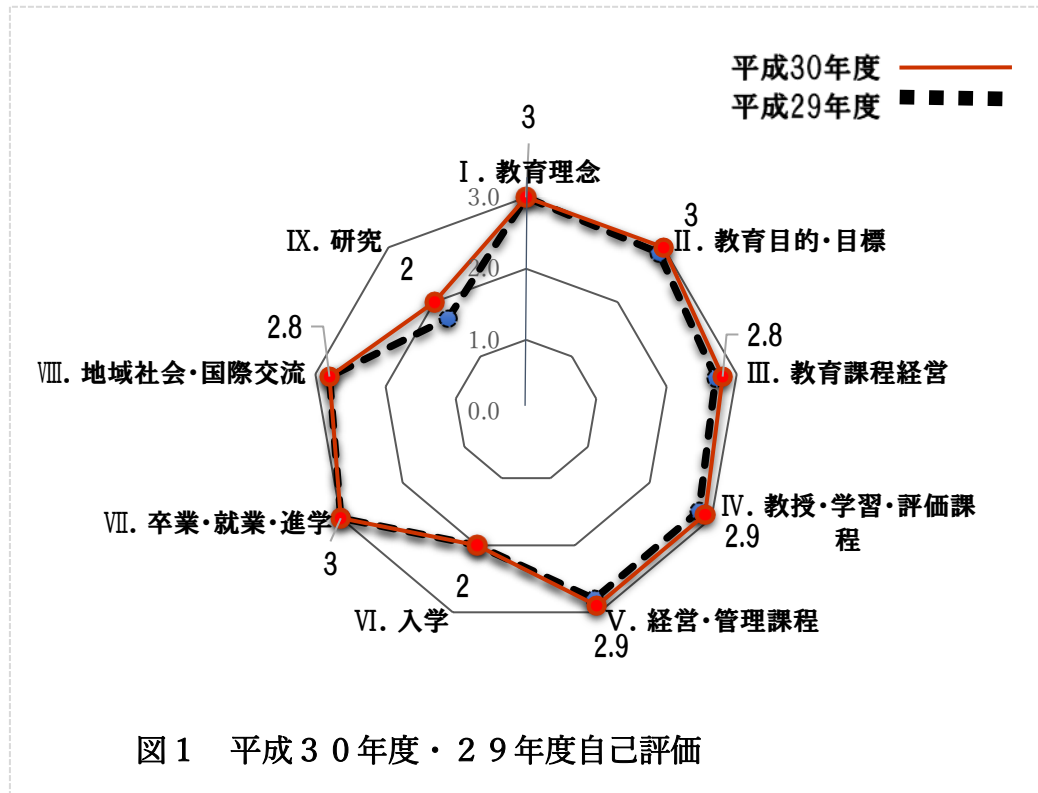


平成 30 年度自己点検・自己評価



3：当てはまる 2：やや当てはまる 1：当てはまらない

平成30年度取り組むべき課題と結果

課題	結果
1. 自己点検・自己評価に必要なデータをできるだけ数値化し、評価資料を作成する。	社会人基礎力、授業評価の数値化が統一されていない。数値化を進め、評価資料を増やしていく。
2. 教育力向上に繋がる研修への参加率を上げる。	看護教員養成講習会に1名、教育・専門領域の知識を深めるための学校外の研修は述べ17名、学内での研修は5件、述べ64名が参加している。各教員は何らかの研修に1回以上は参加している。参加者の偏りを少なくし参加しやすい環境づくりが必要である。
3. 教員が何らかの研究に自主的に参加できる。	1グループが研究に組むことはでき、次年度の発表につながった。
4. 入学については入学生の質と量の確保のために応募者数を増やす。	入学試験の倍率は第1看護学科は増加したが、第2看護学科は一減となっている全体としてはほぼ横ばいであり、今後も広報活動の工夫が必要である。

自己点検・自己評価の概要

平成 30 年度は評価点の全体の平均点は 2.63 から 2.71 に上がっているが、29 年度とほぼ同じ傾向を示している。VI. 入学と IX. 研究は昨年度同様に 2.0 となり、他の項目と差がある。入学については昨年度入学者選抜方法を見直し、広報活動も充実させているところだが成果は挙がっていない。准看護師学校の状況の影響が大きいため、准看護師学校との交流を図っていく。また、研究についても、取り組めていないため、計画的に取り組む。

1. 教授・学習・評価課程

「シラバスの提示や学習への指導は、学生の学習への動機づけと支援になっている。」が昨年度より評価点が 3 から 2 に下がっている。教員の退職・新採用などの影響も考えられるため教員への支援を計画的に行う必要がある。

2. 地域社会・国際交流

平成 30 年度は善通寺市と坂出市との包括的地域連携・協力を締結した。しかし、この協定は締結したばかりであるため令和元年は地域のニーズの掘り起こし、協力体制の構築につなげていくように努める。

また、「留学や海外において、看護職に就くことを希望する学生に対応できる体制を整えている。」は 3 から 2 に下がっている。個別にニーズがあった場合に対応するようになっているが希望者もほとんどいない状況が続いており、証明書の対応のみになっている。今後状況を考慮して対応を考えていく。

4. 研究活動については研究活動の支援体制が十分活用されず、教員による研究への取り組みがされていない。

令和元年取り組むべき課題

1. 自己点検・自己評価に必要なデータをできるだけ数値化し、評価資料を作成する。
2. 教育力向上に繋がる研修への参加率を上げる。
3. 教員が何らかの研究に自主的に参加できるような環境を作る。
4. 入学については入学生の質と量の確保のために応募者数を増やす。